

学校概要

創立	108周年	学校長	石川隆一	副校長	菊池幸博	学期	2学期制	児童・生徒数	494人
学級数	一般級: 17	個別支援級:	2	主な関係校: 西中学校					

学校教育目標

- 進んで学ぶ子ども【知】 新しい可能性を求め、自ら学ぶ姿勢を育みます。
- 心豊かな子ども【徳】 互いの人格を尊重し合い、豊かな心を育みます。
- 命と体を大切に子ども【体】 自他の命を大切にするとともに、健康な体を育みます。
- 社会に貢献する子ども【公】 社会の一員として、互いに支え合う態度を育みます。
- 共に生きる子ども【開】 様々な人々とコミュニケーションを通して、社会への視野を広げ、共に生きる心を育みます。

学校の特徴

- 本校は西中学校と一小一中ブロックの関係にある中学校併設型小学校であり、共通の学校教育目標の下、9年間を見通した小中一貫教育を進めてきている。
- 横浜の中心地に近い立地環境にありながら、古からの商店街や寺、神社も共存する地域にある学校であり、祖父母の代までさかのぼり多くの卒業生が在住するという、地域と共に歩んできた学校である。
- 授業づくりや指導力の向上に前向きな教職員が多く、「チーム」として協力し合い学び合い高め合う姿勢が生まれている。
- 小中一貫教育推進にあたっては、その意義を再認識し、学習指導、児童生徒指導連携、学校行事等での交流において、双方のねらいを大切にしながら、よりよい取組を工夫していく必要がある。
- 基本的な生活習慣、規範意識、より豊かな人間関係の形成等について、言語・コミュニケーション能力を軸に指導していく必要がある。

学校経営中期取組目標

- 児童一人ひとりを大切にしたい活力と魅力に溢れた学校づくり、9年間を見通して社会の変化に対応した生きる力の育成を目指した学校づくりを、「チーム西前」で一丸となって進めます。
- ・西中学校との連携、協働によって、コミュニケーション能力の育成と、教育課程の編成・検証を基にした授業づくりに取り組みます。
- ・一人ひとりのよさを生かし、「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学級・学年・学校経営に取り組みます。
- ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、言語活動を大切にしながら学力の向上を目指すと共に、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活を送ることができるようにします。
- ・地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを進めます。
- ・子どもたち及び社会の範となり学び合い高め合う教職員となり、チーム力を一層高め、信頼される教職員集団を目指します。
- ・重点取組分野、各教職員の自己目標に、可能な範囲で具体的な目標を設定し、一歩上の組織、自分を目指します。

小中一貫教育の取組

西中	ブロック	西前小学校	西中学校	(併設型小中学校)
9年間で育てる子ども像	○すすんで学ぶ子ども ○心豊かな子ども ○命と体を大切に子ども ○社会に貢献する子ども ○共に生きる子ども (小中共同の学校教育目標)~取組3つの柱・教科指導の充実・行事交流・児童生徒指導連携を通して~			
本校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間一貫した教育を推進するために中学校と連携、協働して教育課程の編成・検証を行うと共に、「コミュニケーション能力の育成」をブロック研究テーマとして設定し、各教科等においてテーマを意識した授業を展開する。 ・中学生とふれあう活動を大切に、9年間を見通した学校行事等の充実を目指す。 ・児童会、生徒会の連携を図りながら基本的な生活習慣の形成、よりよい人間関係の構築に向けて指導する。 ・小中一貫教育の取組を通して、教職員間における「授業観」「児童生徒理解観」「評価観」等、「観」の共有を図っていく。 			

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	一人ひとりの児童の実態に合わせ、学習の楽しさを実感できる授業を進め、基礎基本の定着と学力の向上、言語活動の充実とコミュニケーション能力向上を図る。	①小中一貫カリキュラムの実施・評価・改善を進めるとともに、合同授業研究会等を活用し、学力の向上を図る。②重点研究のテーマを「自ら考え、判断し、実践していく子どもをめざして」と設定し、道徳を中心に自分の考えをもてるような発問の工夫をしていく。③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指す。
豊かな心	自尊感情を育て、自他及び生きとし行けるものの命を尊重して行動する力を育てると共に、地域社会に関心をもち、まちの一員として行動しようとする意識や態度を育てる。	①自ら進んで挨拶する姿を認め、学年に応じた取組を設定していく。②ふれあい活動・異学年交流を充実させ、よりよい人間関係の基盤を培い、社会性を高める。③地域とふれあう活動を大切に、「まち」や「人」とのつながりを活かした学習を展開する。④「主体的な価値把握」と「振り返り」を大切にされた道徳授業を、全教育活動との関連の中で工夫・実践していく。
健やかな体	基本的な生活習慣の形成に関する活動に全校で取り組む。また、楽しんで運動に関わることを通じて、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育成し、体力の向上を図る。	①養護教諭、学校医と連携し、保健委員会、学校保健委員会の活動の充実を図り、本校の健康課題について、学年発達段階に応じて取り組んでいく。心身の健康に必要な正しい知識を、教科指導、保健指導、食育等を通して指導する。②一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、年間の活動を通して体力の向上を図る。
児童生徒指導	児童理解及び情報の共有を基盤とし、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい指導を徹底していく。また、規範意識の育成を図ると共に、「いじめ」を許さない環境作りに努める。	①「学校のきまり」「3つの約束」を全教職員で共有し、適時指導に当たる。②「いじめ防止基本方針」を学校経営の柱として位置づけ、未然防止・早期発見・実態把握・対応方針と措置に、組織的・計画的かつ迅速に取り組む。また、児童主体のいじめ防止活動を推進し、保護者地域と方針や取組の共有を図る。
幼保小連携	幼保小の連携を推進するため、近隣幼稚園・保育園と、積極的な交流を図っていく。また、特別支援教育に視点をのいた情報交流を密にし、円滑な接続を目指す。	①主な近隣4園との交流を密にし、これまでの交流事業をより発展的に行い、相互理解を深めていく中で、より有意義な情報交換と、円滑な接続を目指していく。②より深い相互理解のための職員交流も、区の推進事業を軸に、合同研修、授業・保育参観等、ブロックレベルで取組を推進する。
安全管理	児童理解及び情報の共有を基盤とし、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい指導を徹底していく。また、規範意識の育成を図ると共に、「いじめ」を許さない環境作りに努める。	①年間の訓練を計画的に実施していくとともに、常に計画・指針についてチェックと見直しを図っていく。②小中連携の引き渡し訓練を実施し、緊急時における児童・生徒の安全確保と保護者や地域との連携をスムーズに行うための体制作りを行う。③消防、警察と連携した教職員研修も適時実施し、安全確保のためにすることの確認と実践力の向上を図っていく。
いじめへの対応	児童一人ひとりが、居場所をもち自尊感情をもてるような受容的な環境をつくる。また、すべての児童の「教育を受ける権利」を保障するための支援を確実に実施する。	①児童の気持ちに寄り添い、児童の話をよく聴いたり、児童の姿をとらえて前向きになるような言葉がけをしたりして一人ひとりを大切にいく。②児童一人ひとりの状況について情報を共有して、校長をリーダーに、担任や各学年教諭、児童支援専任教諭からなるチームによる支援を進める。③道徳や教科指導を通していじめの理解を図り、個性を尊重する親和的な集団づくりをめざす学級・学年経営を目指していく。
地域連携	地域の教育力を活かし、開かれた学校づくりに努めると共に、地域を愛する子どもたちを育成する。また、学校からの情報発信を積極的にいき、教育活動の活性化を目指す。	①小中合同での学校運営協議会や学校説明会、学校だより、HP等で学校経営方針、日々の教育活動等を積極的かつ具体的に発信していくとともに、学校評価アンケート等で挙げられた意見を、学校経営に活かしていく。②まちとともに歩んできた学校として、地域行事等にも子どもたちが積極的に参加できるようにしていく。
人材育成・組織運営	メンターチームを組織し、授業力・指導力向上のため主体的に指導改善を推進する研修を計画的に行う。また、職員のニーズにあった校内研修の充実を図っていく。	①教職経験年数5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の活動を継続的かつ自主的に行い、先輩教員の支援を受けながら教師力の向上を図る。②学校の実態や教育改革の内容を受け、適時必要な研修を計画・実施していく。③週2回教務会を行い、学校リーダーが全体を見通して学校運営に携わる場を設定する。